

## 重点施策 12 文化振興事業の充実

### 【施策方針】

優れた文化芸術事業や郷土の先駆者を顕彰する企画展、歴史探検学習等を実施し、市民が文化活動・郷土史学習に参加し体験できる場を提供することにより、郷土愛を育むとともに、文化活動の支援と地域文化を支える人材の育成に主眼を置き、幅広い分野での芸術、文化活動の市民への普及、啓発を実施する。

### 【実施状況】

#### (1) 主な施策・事業

##### ■文化芸術事業の振興

- ① 八幡浜市美術展の開催
- ② 県展八幡浜移動展の開催
- ③ 八幡浜市美術館特別展の開催

##### ■文化会館事業

- ① 文化会館管理・運営
- ② 自主文化事業の開催（繰越4事業のうち、3事業を実施）
- ③ 企画プロデュース事業への助成（新型コロナウイルス感染拡大防止のため申請なし）
- ④ カルチャー教室・ロビー展の開催

##### ■市民文化活動センター事業

- ① 市民文化活動センター管理・運営
- ② 自主文化事業の開催
- ③ 駐車場の拡幅

#### (2) 施策・事業の実施状況

##### ■文化・芸術事業の振興

##### ① 八幡浜市美術展の開催

市民より作品を募集し、絵画（洋画、日本画）、書道、写真、工芸等の各分野から192点の応募があった。特に優秀な作品については市展優賞、市長賞、議長賞、教育長賞、文化協会長賞、推奨、高校生奨励賞等の表彰を行い、作品制作の励みとなるようにした。

観覧料は無料。観覧者1,306人（八幡浜市美術展委託料）394千円

##### ② 県展八幡浜移動展の開催

県展出品者の中から、八幡浜市出身者の作品を中心にして、八幡浜市美術展と同じく、絵画（洋画、日本画）、書道、写真等の作品110点を展示した。

観覧料は無料。観覧者903人（県展八幡浜移動展委託料）233千円

③-1 八幡浜市美術館特別展「アンティークドールの夢～児玉幸雄コレクション」の開催

八幡浜市美術館の特別展Ⅰとして、19世紀後半に欧州で制作されたビスクドール（陶器人形）と呼ばれる人形・絵画88点を展示し、アンティークドールの黄金時代を築いたジュモーやマルセルをはじめとする名高い人形工房の作品を紹介した。また、会期中にはワークショップやギャラリーコンサートを開催し、市民のみなさんに広く芸術に親しんでいただける場を設けた。

会期 7月17日～8月29日（38日間） 観覧者 669人 （展示輸送委託料ほか）6,056千円

③-2 八幡浜市美術館特別展「高知県立美術館所蔵～写真家・石元泰博の眼～」の開催

八幡浜市美術館の特別展Ⅱとして、2021年に生誕100年を迎える四国（高知県）ゆかりの世界的写真家・石元泰博を紹介する展覧会を高知県立美術館の協力を得て開催した。

会期 10月2日～11月3日（28日間） 観覧者 404人 （展示輸送委託料ほか）2,854千円

■文化会館事業

① 文化会館管理・運営

市民の日常の学習や文化活動の場として自己を高め、芸術文化の向上と地域文化を育むとともに、生涯学習の拠点として貸館業務、カルチャー教室、ロビー展などを実施した。自主文化事業と企画プロデュース事業は新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施。

② 自主文化事業の開催

令和2年度の開催が延期となっていた「宇崎竜童弾き語り LIVE」、「Ensemble9640 コンサート」、「鼓童ワン・アース・ツアー」、「江戸家小猫と林家二楽の演芸会」の4事業を計画し、「江戸家小猫と林家二楽の演芸会」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としたが、残り3事業については計画通り実施した。

③ 企画プロデュース事業への助成

市民が企画・立案し自主運営する文化事業（映画会・講演会・コンサート等）の募集をしたが、新型コロナウイルス感染症の対応のため申請がなかった。

④ カルチャー教室・ロビー展の開催

カルチャー教室については、地域文化の創造に貢献できる人材を育成するために公民館の学習講座との調整を図り「夢づくり・夢学び」をキャッチフレーズに、俳句・絵手紙・料理の3講座を開講した。それぞれ年間10回開講を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、絵手紙は7回、料理は9回の開講となった。

また、ロビーを作品発表の場として開放し、「ミニ美術館」として活用した。市民の方々の優れた作品を展示し鑑賞していただいている。

■市民文化活動センター事業

① 市民文化活動センター管理・運営

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市内在住者に利用を制限する期間もあったが、コロナ感染対策を講じながら貸館・自主事業を実施した。

施設の運営にあたっては、利用者からの要望の多かった照明器具及び舞台備品(平台等)を充実させ、「練習」の場・「発表」の場として利用しやすい環境を整え、市民の自主的な文化・芸術活動並びにボランティア活動等の支援につなげた。

## ② 自主文化事業の開催

定期的に開催している映画上映会では、市民のリクエスト作品を中心に上映を行い、さらに愛媛国際映画祭、優秀映画鑑賞推進事業(35m ミリフィルム上映)に参加することで、新旧、邦画・洋画、様々なジャンルの作品を上映することができた。八幡浜市民文化活動センターが映画上映をする施設として市民に徐々に浸透し、リピーターが増加してきているほか、南予地域に映画館がない現在、近隣自治体からも来場があり、市内外に映像文化に親しむ機会を提供するとともに、交流人口の獲得にも寄与している。

また、市民にとって身近な存在である当市にゆかりのあるアーティストを迎えた公演(SUMMER CONCERT～歌声で紡ぐ新たな世界～／てやてや寄席／1周年記念ライブ/ニューイヤークンサート～音楽のおくりもの～)を開催し、優れた芸術文化を「鑑賞」する機会を提供するとともに、てやてや寄席開催時には、小学生がプロの唸家から直接指導を受け小唸を披露する機会を提供し、伝統文化の未来の担い手、鑑賞者となる次世代の人材育成につなげた。

## ③ 駐車場の拡幅

市民文化活動センター南側の駐車場を拡幅整備し、駐車区画を41台から72台に増設した。これにより、ホールイベント開催時でも、現状、ほぼ利用者の駐車スペースを確保することができており、来場者の利便性の向上につながった。

### 【事務事業点検評価委員意見】

○ 市民文化活動センター(コミカン)にある八幡浜市美術館が「市民のアートへの入口」として開館してから、芸術・文化活動の面で大きな役割を果たしている。八幡浜市美術展では、市民より作品を募集し、絵画・書道・写真・工芸などの各分野から192点もの応募があった。どの作品も制作者の思いが伝わってくるレベルの高い作品ばかりであった。この美術展では、「高校生奨励賞」を設けており、若い才能を伸ばす上で、大変意義がある。観覧者が1,306人もあり、市美術展が市民に親しまれていることが分かる。例年より多少少なかったのは、新型コロナウイルス感染症の対応のためであると思われる。

県展移動展においても、八幡浜市出身者の作品を中心に110点が展示されており、市民が芸術に触れることのできる環境があることは、大切なことだと思う。

八幡浜市美術館特別展「アンティークドールの夢～児玉幸雄コレクション」には、19世紀にヨーロッパで制作されたビスクドール88点が華麗に展示されていた。ジュモーやマルセルなどの高名な人形作家の作品を直に見ることができるよい機会となった。さらに、開会中

にワークショップやギャラリーコンサートが開催され、子どもたちも夢を膨らませていた。観覧者は、669人となっていた。

同じく特別展「高知県立美術館所蔵～写真家・石元泰博の眼～」は、四国ゆかりの世界的写真家、石元泰博の作品が美しく展示されていた。新型コロナウイルス感染症の対応のためか、参加者がやや少なかったのが残念であった。観覧者は404人であった。

- 文化会館事業では、「宇崎竜童弾き語り LIVE」「Ensemble9640 コンサート」「鼓童ワン・アース・ツアー」が実施され、中央で活躍されている方々を招き、幅広いジャンルのコンサートが実施できた。本物の音楽に触れることは、市民にとって大きな喜びであると思われる。

自主文化事業の一部と企画プロデュース事業への助成については、新型コロナウイルスの影響を受けている。来年度は、実施できることを願っている。

カルチャー教室・ロビー展は、感染防止に気を付けながら、年間通して活動できたことは、素晴らしいと思われる。作品を「ミニ美術館」として公開し、好評を得ているが、市民に対しての広報活動に、さらに力を入れると一層盛り上がると思われる。

- 市民文化活動センター事業については、「練習の場」・「発表の場」として利用しやすい環境を整え、市民の文化・芸術活動にやる気と生きがいをもたらし、市民全体に活気と明るい展望を与える場となっている。

コロナ禍でありながら実施している映画上映会では、南予地区に映画館がないため、近隣自治体からも来場があり、リピーターが増えている。また、当市にゆかりのあるアーティストを迎えた公演も好評で、「てやてや寄席」では、小学生がプロの唸家から直接指導を受け小唸を披露するなど、次世代の人材育成に繋がる、意義のある取組である。

駐車場の拡張は、イベントに参加する者にとって安心して参加ができる。今後、コミカンの利用が増えるものと思われる。

### 【自己評価】

- 八幡浜市美術館は、美術館として高い機能を備えながらも、市民のみなさんが気軽に利用しやすいつくりになっている。特別展Ⅰとして開催した「アンティークドールの夢～児玉幸雄コレクション」展では、アンティークドールの黄金時代を築いたジュモーやマルセルをはじめとする名高い人形工房の作品を展示することができ、来場者の皆様に大変喜んでいただいた。また特別展Ⅱとして開催した「高知県立美術館所蔵～写真家・石元泰博の眼～」展では2022年に生誕100年を迎えた四国（高知県）ゆかりの世界的写真家・石元泰博を紹介することができた。これからも様々な芸術作品の鑑賞の場として、また、創作活動の発表の場として活用を図り、広く市民のみなさんに美術・芸術に親しんでいただける場を設け、よりたくさんの方に来場いただけるよう広報を行っていきたい。
- 文化会館自主事業に関して、新型コロナウイルス対策のガイドラインに基づき感染対策を取りながら徐々に再開している。令和3年度はコロナ禍で延期になっていた「宇崎竜童弾き

語り LIVE」「Ensenmble9640 コンサート」「鼓童ワン・アース・ツアー」を開催することができ、たくさんの方に来場いただけた。来年度は開館25周年の記念の年になることから、たくさんの方の市民のみなさんに楽しんでいただけるよう、ニーズに対応した自主事業を企画したい。

- ポストコロナを見据え、市民文化活動センターの更なる認知度向上及び利用促進を図るため、引き続き、様々な媒体を活用した情報発信に努めたい。また、次世代の人材育成に繋がる企画も交えながら、施設特性を活かしたイベントを開催していきたい。